

あ い さ つ

島根県立三瓶自然館は、自然保護に関する普及啓発事業を通じて自然保護の大切さを広く県民に訴え、自然環境の保全に寄与することを目的に、平成3年（1991年）10月に大山隠岐国立公園三瓶山地区北の原に開館致しました。以来、国立公園三瓶山の生きた自然の博物館「三瓶フィールドミュージアム」の中心施設として、自然保護や自然教育の場、自然情報の発信基地として活動してきたところです。

平成11年に三瓶小豆原埋没林が発見されたのを契機に、平成14年度には新たに島根の自然を地史的に紹介した「環日本海の自然」の展示室や標本収蔵室・研究室等が増設され三瓶自然館は以前にも増して充実してまいりました。また、平成15年5月には埋没林の現地に縄文時代のスギの巨木林を埋没したままの状態で開催する、三瓶小豆原埋没林公園が完成する予定です。その一方で我が国における「活火山の定義」の見直しによって、この2月に三瓶山は活火山（Cランク）に分類され、火山災害に対するハザードマップ作成の話題も取りざたされるようになりました。このような折り、当初からの懸案だった「研究報告」を創刊できましたことは、誠に感慨深いものがあります。

島根県立三瓶自然館は、島根県における自然史系博物館として位置づけられており、この度、博物館相当施設として登録されました。これを機に、島根の自然の記録と調査研究にもさらに力を入れ、より博物館活動を充実させていきたいと考えておりますので、今後とも皆様方のより一層のご教示とご助力を賜りますようお願い申し上げます。次第です。

2003年3月

島根県立三瓶自然館
館長 瀬上 康浩